AI時代に求められる、
強いチームワークと「情報共有」

2026.10.15

佐藤嵐士（サイボウズ中国）



さとう　あらし
佐藤 嵐士
神奈川県相模原市出身

中国歴は6年目、上海は2年目
2016年～2020年　北京留学
2025年～　サイボウズ上海

趣味はゴルフと旅行
　ゴルフは絶賛練習中
　国慶節はバンコクへ

会社概要

サイボウズ株式会社
(東証プライム4776)

1997年8月
愛媛県松山市にて3名で創業

事業内容

「グループウェア」
の開発・販売・運用

業務アプリケーション
kintone

スケジュール共有ソフト
Garoon

サイボウズ製品導入社数
17万社

クラウド基盤利用ユーザー数
320万ユーザー

中国圏での導入社数
1,400社

※2024年9月末時点

才望子信息技術（上海）有限公司
設立　2007年5月
従業員数　84名
他拠点　深圳分公司、成都分公司



日商才望子股份有限公司 台北分公司
設立　2017年　9月
従業員数　12名

本日のアジェンダ

①導入：なぜ今、チームワークなのか？
②サイボウズが考える「チームワーク」
③AI時代、情報の価値はどう変わるか
④情報が自然に集まる仕組みとは？
⑤kintoneとは？
⑥まとめ

導入：なぜ今、チームワークなのか？

人数が減っても**「持続的に成果を上げる強い組織」**をつくるには「チームワーク」が不可欠





導入：チームワークとは？

チームワークとは、共通の目標に向かって役割を分担し、協働すること。
成果を出すには、**共通の目標・役割分担・コミュニケーション・情報共有・モチベーション**が必要。

チームの成立条件



（山口裕幸 2008）

チームワーク発揮のポイント

1	理想を創る	ゴールは何か
2	役割分担	メンバーの強み弱みを活かして役割分担できているか
3	コミュニケーションする	メンバー間でコミュニケーションができているか
4	情報共有	メンバーが同じ情報やノウハウを共有しているか
5	モチベーション	一人ひとりのモチベーションは維持向上しているか

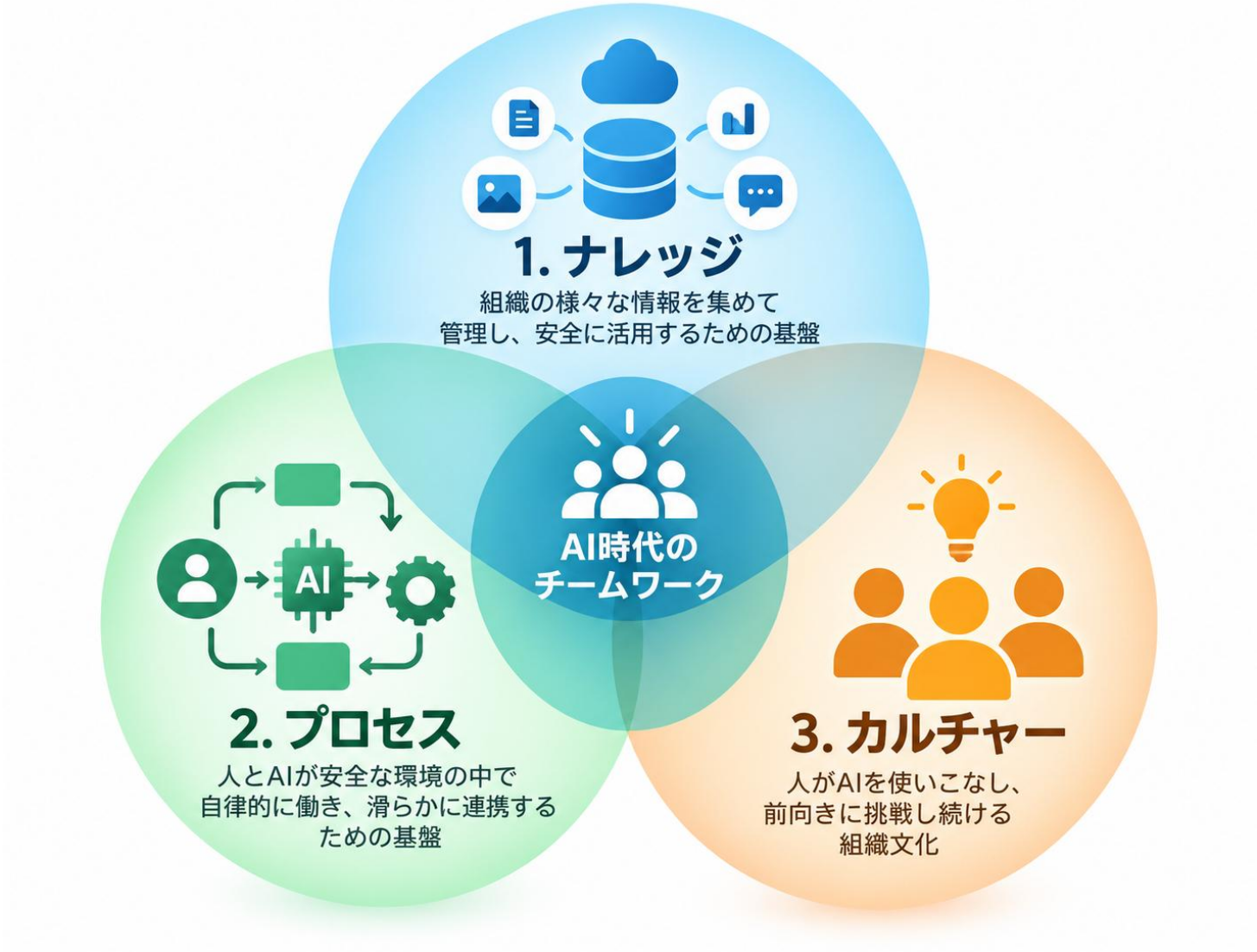
参照：https://teamwork.cybozu.co.jp/blog/team.html

導入：なぜAI時代にチームワークが重要なのか？

チームワークがAIの価値を上げ、AIがさらにチームを強くする



導入：AI時代に求められるチームワーク基盤



「公明正大」な
情報共有が重要

サイボウズが考える「チームワーク」

サイボウズの企業理念

存在意義
Purpose

チームワークあふれる社会を創る

文化
Culture

1.理想への共感
共通の理想を作り、理想に共感して行動する

2.多様な個性を重視
多様な個性を重視し、互いに活かし合う

3.公明正大
オープンな信頼関係の基盤を作る

＋

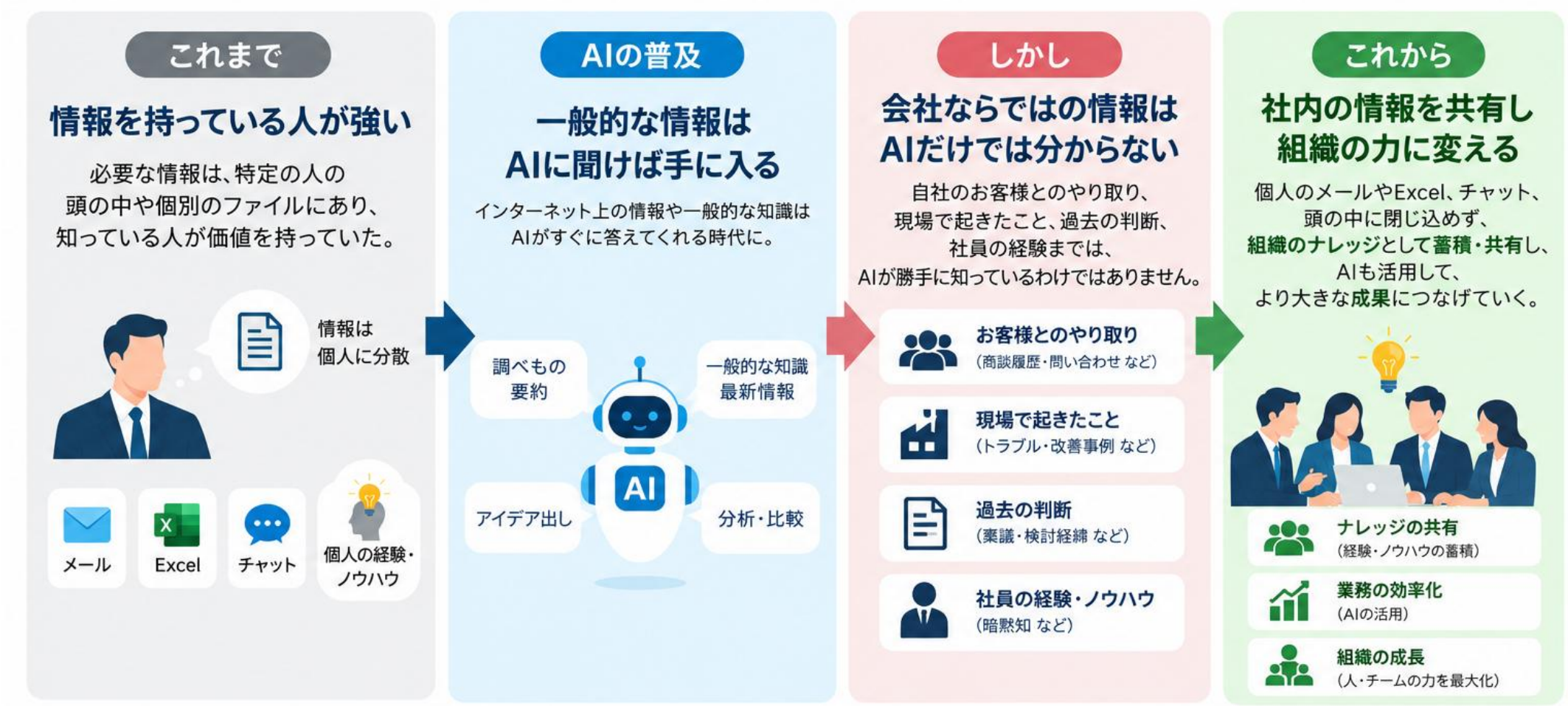
4.自主自律
一人ひとりが主体性を持ち、
よりよいチーム作りに関わっていく

5.対話と議論
お互いの考えの前提を理解し、論じ合って意思決定をする

AI時代、情報の価値はどう変わるか

情報を「持っている」ことの価値低下

AIに聞けば何でもわかる時代。「知っている」ことでは差がつかない。



今の駐在員に求められる役割

駐在員の帰任・担当者の退職があっても**組織に情報が残り続ける仕組みづくり**が重要。



情報が自然に集まる仕組みづくり

AIに使われる人材になるか、AIを使う人材になるか。

その差を生むのは「主体性」。まずはDXから現場主体で進めることが重要



現場「主体」の重要性



現場が考え、作り、使い、改善する。その経験が「主体性」を育てる

現場にもメリットがあるから、使われ続ける→情報が自然に集まる

kintone とは？

業務アプリケーション開発プラットフォーム「kintone」

現場のユーザー一人ひとりが、**主体的**に業務を改善できる**プラットフォーム**



kintoneとは

「現場主体の業務改善」を支援するプラットフォーム

直感的なUI/UXで**「業務アプリ」**を作成できる。



ノーコード

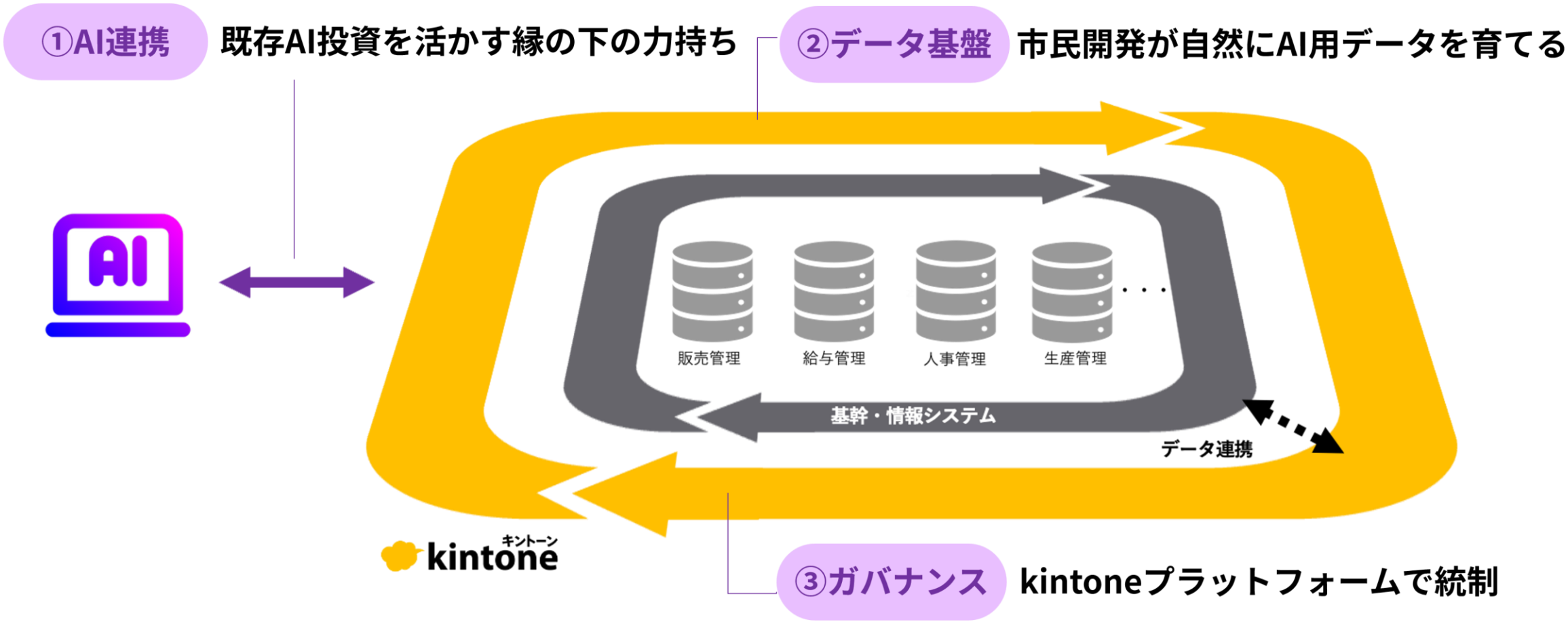
コードを書かずにアプリケーションを開発できる

×

ローコード

少ないコードでアプリケーションを開発できる

kintoneは、AIのためのデータ基盤として重要な役割を果たす



事例：浜正機電貿易（蘇州）様の例

当時**IT経験はなく**不安もありながら、動画等を観て自主的に勉強し、不明点はサイボウズに相談。

「主体的」にDXをやったからこそ、AI活用も**「主体的」**に取り組めている。

kintoneで部門を超えた全社での情報共有を実現！
業務上のコミュニケーションが活発化し、円滑な業務遂行と生産性向上に成功



HAMASHO CORPORATION



kintone的
高度自定义化

以DX伴走的方式，邀请业务负责人共同参与项目，面对面听取诉求、满足期望，充分理解后开发。

借助AI开展
定制开发

担当：企画室・DX推進室でkintoneを担当されている李様。
IT経験のないところからスタートし、これまでにkintoneで150以上のアプリを構築。
現在ではAIも活用しながら自ら開発を行うなど、機能の拡張や利便性の向上にも主体的に取り組まれています。

まとめ

駐在員が減っても、AI時代に強い組織へ

人がつながり
知がつながり
未来をつくる

駐在員の減少・現地化

AIの台頭

新しいチームワークが必要

距離があっても
つながる
組織の知

情報の基盤

駐在員がいなくても、情報が組織に残る



自然に集まる

安全に共有できる

判断・AI活用につながる

人材の基盤

自ら考え、AIを使って仕事を変える



課題を見つける

仕組みをつくる

改善を続ける

現場の力で
もっとよい
未来へ



現場主体のDX

現場が自ら業務を見直し、つくり、使い、改善する。

情報が組織に蓄積される ＋ 主体的な人材が育つ



現場主体のDXが、人材と情報基盤を同時につくる。

それが、駐在員が減っても強い組織をつくる。

お気軽にご相談ください

STEP 01 — 無料お試し30日申し込み

STEP 02 — お試しアプリ構築 / パートナー選定

STEP 03 — 契約申し込み

STEP 04 — アプリ構築 / 本運用開始

日本語でも、中国語でもサポート対応可！
導入から運用まで、お気軽にご相談ください。




cybozu